

2009 JAPAN ASSOCIATION OF MEDICAL AND CARE FACILITIES

第3回 慢性期医療認定講座 開催のご案内

日本慢性期医療協会（日本療養病床協会）では、この度、第3回慢性期医療認定講座を開催する運びとなりました。本認定講座では、慢性期医療に携わる医師・看護師の皆様の基本となる知識や技術を履修していただき、さらに、患者のみならず、ご家族まで含めた全人的医療・ケアへのチームアプローチを習熟できるようなプログラムと致しました。

全6日間24単位を履修された方には、「慢性期医療認定証」が授与されます。医療技術がますます高度化する中、機能分化により急性期病院の在院日数の短縮にも拍車がかかけられ、治療の早い段階で慢性期医療の現場がその治療やリハビリを引き継ぐ場合が増えてまいりました。急性期医療から来られる患者の病態は多くの合併症を持ち、身体機能が著しく低下していることも少なくありません。これらの患者には、急性期治療そのままの医療、ケアを提供するのではなく、慢性期医療のノウハウをもって対応することが肝要です。

本認定講座は、これまで培われてきたノウハウに加えて、各分野からの第一人者を迎え、慢性期医療の基本を集大成した内容の濃い講義となっております。

当協会が平成4年に設立以来この17年の間には、世界で例を見ない超高齢社会への突入という社会構造の変化や、療養病床の創設、介護保険制度の施行など、医療をとりまく環境は大きく変わってまいりました。このような環境の中でこそ、療養病床が地域医療拠点として各医療機関、施設、在宅等との連携をすすめ、多様なサービスを提供できる機能が求められております。

つまり、慢性期医療においては、急性期を引き継ぐ高度慢性期医療、リハビリテーション、維持期医療、在宅医療へのサポート、ターミナルなど、ますます幅広い知識と技術を身につけることが必要となりました。当協会としてもその一翼を担うべく、昨年7月2日に団体名を日本療養病床協会から日本慢性期医療協会に改称し、今後さらに求められるであろう慢性期医療の必要性和重要性の責務に伝えていく決意です。

本認定講座を意義あるものとし、各病院、地域で慢性期医療認定を受けられた医師・看護師の皆様が活躍され、社会のニーズに応えられるより良い慢性期医療を展開されるよう望みます。



日本慢性期医療協会 会長 武久 洋三



一般社団法人
日本慢性期医療協会